

会員だより

真冬の石垣島

二〇一三年 12 月 27 日から 31 日まで、私共は「暖」を期待して石垣島の旅をしました。羽田からくる娘一家 4 人と、石垣空港で現地集合、解散でした。すぐに港から高速艇で 25 分、小浜島へ渡りました。NHK 朝の連続ドラマ「ちゅらさん」の舞台で有名になった小さな島です。「はいむるぶし」という名のリゾートホテル、意味は南十字星。白砂のビーチを持つ東京ドームの約 10 倍の敷地に赤瓦のビラがゆったり点在し、海の向いに西表島が大きく見える。ここに 2 連泊。テニス、大きなブランコ、ハンモックなどで遊ぶ。沖縄料理の夕食後、ロビーで地元の歌手が三線とギターで自作の歌を披露。ここは沖縄と実感する。翌日は太陽燦々、気温も高く孫達は七分パンツ、皆でシュガーロードをサイクリングし、ちゅらさんの家（こはぐら荘）、民俗資料館など見学する。夕方、プライベートビーチで孫達は膝まで海に入

り、また砂山を作って南の島を感じ、夜は星がいつぱいでした。

3 日目、石垣島に行く途中、小浜島より更に小さな竹富島に立ち寄るが、あいにくの雨。名物の水牛車で集落めぐり、サン



ゴの石垣や赤瓦に魔よけのシーサー

更にハイビスカスの花々が見える。島民は先人の伝統文化の保存継承に力を注いでいます。

再び船で 10 分、石垣島に渡る。やはり曇天、小雨にがっかり。タクシーは初乗、風が冷たくて外出時はいつもダウンが必要でした。2 連泊した、3LDK マンション（80m）をホテルにしたロイヤルマリンパレスは海と公園に隣接していた。男

児 2 人の孫が塩を海水から手作りする体験をした。自ら海水をすくい石の子鍋に入れ炭火で水分を蒸発させ、真っ白の塩が出来る、小袋に入れて「お守

り」にしました。冬の浜辺は我々 6 人だけ、綺麗な貝がらを探しながら歩く。バスでミンサー織りのお店、また有名な川平（かびら）湾は雨でも美しい海の色と白砂、赤と白の遊覧船が浮かぶ様にため息がでます。

4 日目は、二十万年かけて自然が造りだした鍾乳洞を見学したが凄く奥深くて大規模なのに驚いた。ただ赤や緑のライトアップが不自然だった。同じ敷地に亜熱帯植物園や古代人墓、海人（うみんちゆ）の家、と民具、貝博

物館など見どころが多かったです。改めて日本地図を眺めてつくづく北から南へ長い国だと実感しました。 K・N

西への歴史街道
旧きを訪ね、
新しきを知る

赤穂・日生編・年末年始の自動車旅行となるとま

ず心配なのが高速道路の混み具合である。今年は特に大連休となり、1 月 3 日スタート、4 日帰宅

となると危険地帯に踏み入れるようなもの、私達

は賭けをした。なぜなら正月 1 日、2 日では施設の休園が多いからである。まずは高槻 7 時出発、宝塚付近の渋滞はいつもの

こと、赤穂大石神社に着いたのは 9 時半。まだ屋台が店開きをしていない。参道にある 47 義士の石像がずらりと並んでいる。その台座に寄進者の銘があるが殆ど同じ姓であることからみて、遺族

がおられるのだろうか。おみくじは大吉とでて縁起が良い。鳥居をくぐる

と、1 本彫の見事な大黒天が参拝者に福を与えようとばかり睨みを効かしている。ご利益を頂こうと頭と膝と腰をさする。

この神社の周辺には播州赤穂の城址跡・大石良雄宅跡長屋門・菩提寺の花

岳寺・萱野三平の立ち寄った息継ぎの井戸などがあり、整然とした街並みが広がっている。十数年前に来た頃より赤穂市は

歴史検証がなされ、観光

客の関心をそそられる。夢枕獭氏の釣り小説の中に浅野事件を描写している。時は元禄 14 年（1703）3 月 14 日、毎年

京都から訪れる勅使の接待役に選ばれた浅野内匠頭長矩が江戸城松の廊下で指南役の吉良上野介義

央に突然狂気のごとく斬り付けた。その事件から 47 義士の討ち入りを後

年浄瑠璃や歌舞伎に誇張されてかかれています。事実よく知られています。事実江戸の街中では判官贔屓の日本人体質か、討ち入りを今か今かと待つ気風があつたという。

当時將軍は生類憐みの令を出した 5 代綱吉で、はしかのため 64 歳で死去した。死後江戸中野で保護されていた何万頭もの犬が解放され、釣りも食べる事も許された。この最悪の法令は釣りに到るまでどんな生き物の命を絶つてはいけない。違反した者は厳罰に処すという事で万人を超える人間が罪人にされ、命を落したり、遠島、獄中生

活を強いられた。この悪令に不満が溜まっていたのもこの事件を正当化する面があつたらしい。播州浅野家は 5 万石、吉良家は 4 千石強、勅使を接待するには多額の費用が要り、小藩では出来ない

ので約 3 万石以上の大藩に消費を順に割り当てていた。その一部が儀礼指

導料として吉良氏にまわっていたが、この度浅野氏は 2 度目であり吉良氏から指南を受けなかつた

から、通常千二百両から指南料を差し引いて七百両を渡した事で吉良氏の感情を害して、事前に失

詫の席があつたという。尚浅野氏には当日切腹の刑を言い渡され、言い訳する場も与えられず、吉

良氏にお咎めがなかつたという事で討ち入りになつたらしい。

いつの時代も「おもてなし（・・・）」も「動物（・・・）愛護（・・・）」も人間の裏表があるよう

です。さらに政治とカネが絡んでいるとは・・・。

S・U

